

## 説教題 「仕える心」

聖書箇所 マタイによる福音書 10章 40節—42節

「あなたがたを受け入れる人は、わたしを受け入れ、わたしを受け入れる人は、わたしを遣わされた方を受け入れるのである。預言者を預言者として受け入れる人は、預言者と同じ報いを受け、正しい者を正しい者として受け入れる人は、正しい者と同じ報いを受ける。はっきりしておく。わたしの弟子だという理由で、この小さな者の一人に、冷たい水一杯でも飲ませてくれる人は、必ずその報いを受ける。」

1990年、ベルリンの壁が崩壊した混乱の最中に、旧東ドイツに留学していた私は、前年の12月に呼び寄せていた家族と一緒に、オランダに旅しました。ゴッホ美術館でゴッホの絵を見たり、アムステルダム国立美術館でレンブラントの絵を見たり、あるいは海辺の町まで足を伸ばしたり、それは楽しい旅でした。しかし、その旅も終わり、留学の本拠地である東ベルリンへ帰ろうとした頃でした。アムステルダムのパン屋を覗いて回っていた時、妻のバッグが盗まれました。その中には財布も入っていましたし、何よりも重要なパスポートやビザが入っていました。早速、日本領事館に駆け込みました。領事館の人は私たちを一目見た途端に、「やられましたか」と仰いました。私たちのように、パスポートを盗まれて駆け込む人が多かったのでしょうか。私たちはうかつさを嘆いたものでした。領事館の人は、仮の書面をしたためてくださり、「もしパスポートの提示を求められたらこれを示しなさい。しかし、認められるかどうか保証はできません」と仰るのです。ついこの間、ベルリンの壁が崩壊したばかりで、混乱しているときでした。私たちがベルリンのツォーローギッシャー駅からオランダに向かう列車に乗ったときは夜中に検閲がありました。きっとベルリンに帰る場合も検閲があるに違いありません。私と妻は幼い二人の子どもを抱えてビビリながら列車に乗ったのでした。本当に長く感じる列車の旅でした。しかし、私たちにとっては幸いなことに検閲はありませんでした。もはや検閲どころではない混乱状態にあったのでしよう。

ただ、私はこの経験から、パスポートやビザのありがたさを今更のごとく思い知りました。それらは、その持ち主を守ってくれるものです。日本のパスポートには、日本国外務大臣の名前で、「日本国民である本パスポートの所持人を通路故障なく旅行させ、かつ、同人に必要な保護扶助を与えられるよう、関係の諸官に要請する」との保護要請文が日本語と英語で記載されています。菊の御紋はともかくも、この日本国の配慮がなければ、私たちの旅は危険極まりないものになります。

私はなぜ、こんな昔話を説教の冒頭にしたのでしょいか。賢明な皆さんはもうお分かりだと思います。本日の聖書の言葉は、イエス・キリストが危険を伴う伝道旅行に赴く弟子達のために与えられたパスポートのような言葉だと思ったからです。イエス・キリストは、自分の伝えた福音を宣べ伝える弟子達の群れが、その行く先々で善意を持って迎えてもらえるようにと配慮しておられるのです。先ほどのパスポート流に言うなら、次のように言うとおられるごとくです。曰く、「私の教えを携えてあなた方のところに行き、喜ばしい音信を宣べ伝えようとしているこの者たちを、通路故障なく旅行させ、かつ、同人に必要な保護扶助を与えられるよう、関係する皆様に要請します。」

その際イエス・キリストは、その言葉の効果を高めようとして、最後の決定的な言葉を申されました。こうです。

「わたしの弟子だという理由で、この小さな者の一人に、冷たい水一杯でも飲ませてくれる人は、必ずその報いを受ける。」

この言葉に、弟子達に対するイエス・キリストの思いやりは極まっています。どうか、この者たちをよろしく頼みます、と言っておられるのです。

では、弟子達はいったいどうしてこんなにイエス・キリストにご配慮いただけるのでしょうか。イエス・キリストは本日の聖書の箇所冒頭でこう仰っていました。

「あなたがたを受け入れる人は、わたしを受け入れ、わたしを受け入れる人は、わたしを遣わされた方を受け入れるのである。」

こうなると、弟子達はイエス・キリストや、そのイエス・キリストをおつかわしになった神様と同じ値打ちがあるものということになります。そんなことはありませんでしょう。弟子達が如何に信仰深くとも、イエス・キリストや、そのイエス・キリストをおつかわしになった神様と同じと言うことはできないでしょう。にもかかわらず、イエス・キリストは紛れもなくそう仰っています。

では、なぜイエス・キリストはこんなことを仰ったのでしょうか。それは、ひとえに福音が十二分にこの世の中で働きを為して、できる限り多くの人々が救われるためです。そのために、たとえどんな信仰の状態にある弟子のためにも、この者を守ってください、助けてください、と仰ったのでしょ。

こんなご配慮をいただいたなら、イエス・キリストの弟子達の為すべきことはただひとつです。それは、すなわち、ただただイエス・キリストの過分なご配慮に感謝して、福音伝達のために、人々の救いのために、お互いに仕えあうことです。その際の仕える心は、大仰なものではなく、冷たい水一杯でも与え合うという心です。教会において、献金をささげたり、奉仕活動をしたりするということは、全て、イエス・キリストの福音にお働きいただいて、一人でも多くの人々が救われることを願って為されるものです。そのために、新しい一週間も、冷たい水一杯を心のどの渴いている人に飲んでいただくように仕えてまいりましょう。

祈ります。

<祈り>

神様、今現在、霊肉共に飢え渴いている人々にイエス・キリストの福音による救いが与えられることのみを願って、その福音伝達のために、使徒たちに続く弟子でもある私たちが、お互いに冷たい水一杯でも飲ませあうことができますように、私たちを導いてください。

この祈り、主イエス・キリストのみ名によって御前におささげ致します。アーメン。